

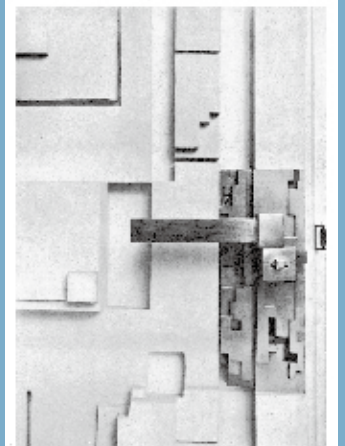
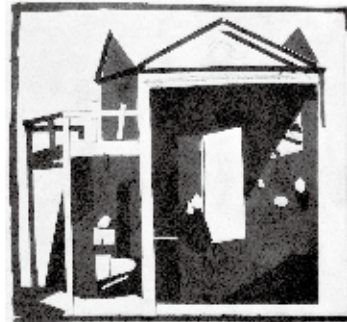
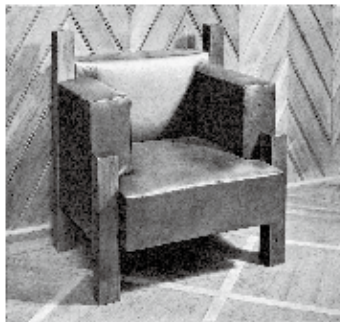
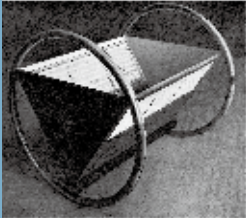
ヴァイマルの 国立バウハウス 1919-1923

利光功 訳



定価 8,400 円
(本体 8,000 円+税)

245×250mm 上製本 236 頁
ISBN978-4-8055-0603-5 C3370 ¥8000E



中央公論
美術出版

バウハウス叢書〔日本語版〕全16巻完結から10年!
バウハウス創立90周年記念出版

1923年にヴァイマルで開催された最初のバウハウス展のうちに刊行された重要な記念出版書。グローピウス（国立バウハウスの理念と組織）、クレー（自然研究の道）、カンディンスキー（形の基本要素）、モホリ=ナギ（新しいタイポグラフィ）、オスカー・シュレンマー（バレエとは）など7本の論文と色彩図版20を含む全167の作品図版によってヴァイマルのバウハウスの全容を紹介する。



定価 8,400 円 (本体 8,000 円+税)

245×250mm 上製本 236 頁
ISBN978-4-8055-0603-5 C3370 ¥8000E

ヘルベルト・バイヤーによる表紙装丁とL・モホリ=ナギによるタイポグラフィとレイアウトをできるだけ尊重して、画期的な新しいブック・アートと評された原著の趣を多少なりとも伝えようとした。(中略)まず全体の総序というかたちで、最初に置かれているのがバウハウスの創立者ヴァルター・グローピウス(Walter Gropius, 1883-1969)の「国立バウハウスの理念と組織」(Idee und Aufbau des Staatlichen Bauhauses)である。これはバウハウスを理解する上で、1919年4月の創立時に出されたパンフレット「バウハウスの創立宣言・プログラム」につぐ重要な文献である。初めに新しい統一の思想が浮上していること、建築は時代の精神を映し出す造形芸術であること、その造形は多数の芸術家の共同作業によって可能であること、芸術家はアカデミーの教育では育成されず、これに対する抗議が19世紀後半に始まったこと、工業界から製品の形に責任を持つ芸術家を求める声が上がっており、そのような芸術家を育成する新しい教育が求められていること、造形活動は空間形成活動であり、数と運動という空間の要素を頭脳と感覚が捉え手が造形すること、そのような造形活動の出来る人間を育成する新しい教育を行うためにバウハウスを設立したこと、が論じられている。

(利光功による「解説」より)



W・カンディンスキー

BAUHAUS

お取り扱いは

中央公論美術出版

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7
電話 03-3561-5993 F A X 03-3561-5834